

伊万里市・有田町の文化財散歩

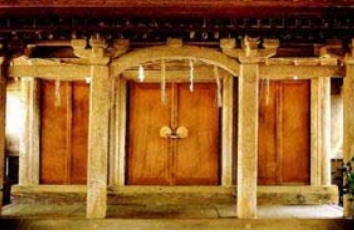
国・県指定重要文化財(建造物)、史跡・天然記念物(動物を除く)、重要伝統的建造物群、登録文化財



伊万里市

重要文化財

(1)田嶋神社本殿



伊万里市波多津町畑津

宗像三女神を主神とし、9神を祀る神社である。本殿は三間社流見世棚造と呼ぶ建築形式で、覆屋の中にある。元は朱塗りの彩色社殿で、建立年代は建武年間と伝わるが、少なくとも15世紀以前と考えられる。県内最古の神社建築で、簡素ながら優れた建築である。

佐賀県史跡

(4)白蛇山岩陰遺跡



伊万里市東山代町大字脇野

国見山麓に位置し、黒曜石が豊富に露出する腰岳に近い。旧石器～縄文時代の岩陰遺跡で、砂岩が風化作用により浸食してできた上洞と下洞からなる。上洞は最大奥行6m、間口40m、下洞は奥行7m、間口8mで、いずれも南東方向に開口する。岩陰の土は約3.5mほど堆積し、13層に分けられ、編年研究の上で重要な遺跡である。

佐賀県天然記念物

(7)東山代の明星桜



伊万里市東山代町浦川内字浦川内 観音堂

根回り5m、樹高13m、枝張り東西約21m・南北15mの巨木で、地面直上から幹回り2mの主幹4本が分岐し、一部空洞が見られるもの、樹勢は旺盛で、3月末～4月初めに新葉とともに薄紅色の花が咲く。100年をかなり上回る樹齢が推定でき、県内では代表的古木である。820年ほど前、松浦2代党祖源直の臣浦内淡路守が、京都の壬生寺から持ち帰ったとの伝承がある。

史跡

(2)大川内鍋島窯跡



伊万里市大川内町字二本柳

鍋島藩は、磁器生産を殖産事業として育成し、1670年代に製作技術の粋を結集して、大川内山に御道具山(御用窯)を開設する。大川内山で作られる焼物(色鍋島・鍋島青磁・鍋島染付)は、将軍や諸大名への献上や贈答等を目的とした特別詔えのものであった。現在、大川内山には、御用窯関連の登窯跡、細工屋敷跡、物原、藩役宅跡等が残っている。

佐賀県史跡

(5)茅ノ谷1号窯跡



伊万里市松浦町山形

藤ノ川内集落の北西の谷に位置する。連房式登窯で水平全長52mの規模を有する。焼成室は中位で幅約2.7m、奥行2.4m。物原は窯の西側に認められる。焼成品は代表的な朝鮮唐津、備前唐津の徳利のほか、青唐津・絵唐津・斑唐津の碗・花立・ぐい呑等がある。操業時期は16世紀末から17世紀初頭と考えられる。

佐賀県天然記念物

(8)早里のイスノキ



伊万里市瀬戸町字早里

江戸時代の干拓地を望む小高い丘の上に立つ。樹高15m、胸高幹周り3.1mの巨木で、枝張りは南北15.5m、東西13.9mに及ぶ。樹齢は200年以上と推定される。用途は、建築材、家具、算盤など多様で、樹皮の灰は釉薬の原料としても使用され、鉄分が少ないため最良とされる。近年、イスノキは開発のため減少し、自生するものは稀で、県内では早里のものが最大である。

佐賀県史跡

(3)小島古墳



伊万里市山代町大字久原字小島

伊万里湾中央西側の小島に築造される前方後円墳。全長43メートル、後円部径22m、高さ5.2m。葺石があり、円筒埴輪も採集されている。内部主体は後円部に設けられた横穴式石室。石室内から鉄鏃・刀子・鋌留金具・碧玉製管玉などが出土した。6世紀後半頃の築造と考えられる。島嶼部に築造された古墳としては唐津市瓢塚とこの二例のみである。

佐賀県天然記念物

(6)青幡神社の楠



伊万里市東山代町里 青幡神社

神社境内のほぼ中央にあり、神木とされてきた。根が地上から数m隆起しており、根回り27.7m、目通り幹回り11.4m、樹高16m、枝張り東西19.3m・南北21mである。地上5mの所から三方に大枝が分かれ、四方に向かって枝葉が繁る。幹には空洞があるもの、樹勢は非常に盛んである。指定樹齢は500年をはるかに越えるといわれる。

登録文化財

(9)前田家住宅



伊万里市立花町

伊万里の大庄屋の屋敷で、主屋、東の蔵は江戸後期、西の蔵、北の蔵、薪小屋は明治後期、水車小屋は江戸後期(明治後期改造)に造られており、大規模民家の全体構成を知る上で大変貴重である。複雑な間取りの主屋は佐賀県の民家の特徴づける「くど造り」の最も発達した姿を伝える。

有田町

佐賀県重要文化財

(10)有田異人館



西松浦郡有田町

明治9年(1876)、貿易商田代紋左衛門の子、助作が、有田の陶磁器を輸出する外向商人の接待、宿泊所として建てたもので、西洋風の建築様式を取り入れた和洋折衷の構造でもある。木造2階建てで、一階正面は12.6m、側面は10.88m。屋根は寄棟造り、棧瓦葺き。基礎は凝灰岩の布基礎で、ペランダ柱の礎石は花崗岩の磨き上げである。

佐賀県史跡

(13)小樽2号窯跡



西松浦郡有田町

江戸時代後期から明治時代初期にかけての窯跡・物原及び江戸時代初期の物原。窯跡の西側は開発によりほとんど消失している。江戸時代初期の遺物は染付が中心で、青磁・天目釉が多く、少量の辰砂・色絵も出土している。後期の窯はレンガ(トンバリ)積みで焼成室の規模は幅8.8m、奥行5m。この時期の物原からの遺物には染付が多い。

登録記念物

(16)陶山神社鳥居



西松浦郡有田町

明治21年につくられたこの鳥居は、磁器の町有田を象徴するもので、青色顔料の呉須で唐草文が描かれた有田焼製である。高さ3.7m、笠木の長さ3.9mである。

史跡

(11)肥前磁器窯跡



西松浦郡有田町

江戸時代初期の朝鮮の技術者による泉山磁石場の発見は、我が国の陶磁器生産に大変革をもたらした。有田周辺で多くの窯が築かれた。天狗谷窯跡は、5基以上からなり、磁器創始の記録に残る窯として貴重である。原明窯跡は、3基以上の窯跡からなり、陶器と磁器を焼造した。山辺田窯跡は、8基以上の窯跡からなり、磁器専焼となつてからは、染付大皿を主に生産した。

天然記念物

(14)有田のイチヨウ



西松浦郡有田町泉山

弁財天社の境内に所在し、雄木で、根回り11m、目通り幹回り9m、樹高38m、枝張りは31mに及び県内随一のイチヨウ巨木で、全国的にも貴重である。推定樹齢は、1000年以上であるが、樹勢は今も旺盛である。

その他の施設

佐賀県立九州陶磁文化館



西松浦郡有田町

九州陶磁文化館は、肥前陶磁を中心に九州全域の陶磁器を収集・展示。館内には九州陶磁の歴史や各時代の特徴などをわかりやすく展示しているほか、現代作家の作品も紹介している。

史跡

(12)柿右衛門窯跡



西松浦郡有田町南山

年木山西斜面に所在する。A窯は、胴木間から12室までの約42メートルが調査され、B窯は、18室までの約69mが調査された。またB窯に沿って物原が長さ70m、最大幅14mにわたって残る。操業時期は、17世紀後半と推定され、BからA窯へ移行した。製品は染付を主に、乳白手、青磁、白磁のほか、数点の赤絵やVOCマーク入染付もある。

重要伝統的建造物群

(15)有田町有田内山伝統的建造物群保存地区



西松浦郡有田町

江戸時代の有田焼の隆盛により、有田に裕福な町人文化を育て、多くの窯元や商家が建ち並ぶこととなった。文政11年(1828)には町のほとんどを焼く大火、近代の洋風建築の増加、さらに昭和初期の中央道路の拡張に伴う曳屋や前面改築で、現在の町並み景観の基が形づくられた。白漆喰の和風の町家や洋風建築が混在し、変化に富んだ景観を形成している。